清浄院(浄土宗)

この寺院は、南北朝観応元年(1350)に浄誉海上人によって開山され、二世運誉存調上人の代に伽藍が完備され、次いで元禄初年(1687)、火災のため九世仰誉学応上人の代に再建され、その壮大さは、城郭を思わせるものであったと伝えられます。更に重ねて水難にあい、十三世寛誉忍秀上人の代に今迄の伽藍が建立されました(天明元年1780)。そして二十一世洞誉達応上人代に、当山の末寺末庵及び管理下にあった寺堂を廃寺統合しました。(清宝院、光明院、法徳寺、地蔵堂、四十九堂、真光寺、十王堂、中之堂、北之堂、薬師堂、普賢堂、大晧庵―頭初は大英寺末) 更に廿四世順誉義応上人の代に本堂改修、観音堂改築等がなされ今日に至っております。

更級郡八幡小学校は、明治6年(1873)に始まりましたが、建物がなくここ清浄院の一画をお借りして開校しました。